

大学史資料センター 自己点検・評価報告書

1-1 理念・目的

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(理念・目的等) ○ センター等の理念・目的・教育目標とその適切性	・現状 本センターは2003年に、本学の歴史及び卒業生等に関する調査・研究・資料保存・利用等を目的として設置された。『明治大学百年史』編纂によって蓄積された資料の活用と、さらなる調査・研究・資料保存の深化を目指し、事業を実施している。 ・長所 本学の歴史情報集積と学内外への発信拠点のひとつとして、本学校友及び教職員さらに一般社会人に対する各種情報収集・提供を行い、創立以来先人が遺してきた成果を後世に伝え、将来への糧として活用している。 ・問題点 規程や人員、設備等のソフト・ハード面での条件整備がまだ十分に進んでいない。	理念・目的を反映させた活動を行っているかどうか、第三者評価を含めた報告書を作成するため、正副所長及び事務局で構成されるWGを設置し、2009年度以降も継続して討議を進めている。
○ センター等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性	・現状 ホームページや「ニューズレター 明治大学史」(年2回発行)、『大学史紀要』・『大学史活動』(年1回発行)の刊行を通してセンターの理念・目的等を報知する。 ・長所 センターの存在とその役割について学内外へ広く知らせることができる。 ・問題点	
(理念・目的等の検証) ・センター等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況	・現状 センター運営委員会で、センターの理念・目的等と、センターで実行する事業について乖離が生じていないかどうか検討している。 ・長所 一つの事業を実施するたびに委員間で密な検証を行っている。 ・問題点 学外を含めた第三者による評価を経していない。	2009年度のセンター運営委員会等において、理念・目的を反映させた活動を行っているかどうか、第三者評価を含めた報告書を作成することを検討中である。

1-2 理念・目的に基づいた特色ある取組み

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
周年事業への取り組み	・現状 明治大学創立130周年記念の一環として『明治大学小史』の刊行に向けた準備と、各種周年事業案について、案出中である。 ・長所	

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	<p>2009年度以降本格化する周年事業の主要機関となるべく、その準備を進めている。</p> <p>・問題点</p>	

2 教育研究組織

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ センターなどの組織構成と理念・目的等との関連	<p>・現状</p> <p>センターは理事長直轄の機関である。①所長, ②副所長, ③運営委員, ④研究調査員, ⑤総務部長, 総務課長及び事務職員によって構成される。</p> <p>センターの事業内容やその運営等は, 大学史資料センター運営委員会により決定される。委員会では所長を委員長、副所長を副委員長とし, 各運営委員は本学教職員の中から運営委員会が理事長に推薦し, 理事会において任命される。運営委員には, 職務上の委員として総務部長, 総務課長が含まれる。運営委員の任期は2年。委員は2008年度現在9名である。</p> <p>所長 別府昭郎(運営委員長・文学部教授)</p> <p>副所長 山泉進(同副委員長・法学部教授)</p> <p>運営委員 吉田悦志(国際日本学部教授) 村上一博(法学部教授) 秋谷紀男(政治経済学部教授) 鈴木秀幸(調査役、文学部講師) 飯澤文夫(学術社会連携部長、文学部講師) 高瀬益男(総務部長) 永代達三(総務課長)</p> <p>研究調査員は, 必要に応じて本学教職員の中から所長が運営委員会の同意を得て委嘱する。現在8名の下記研究調査員を委嘱している。</p> <p>①三木武夫共同研究関係 小西徳應(政治経済学部教授) 間宮勇(法学部教授) 川島高峰(情報コミュニケーション学部准教授)</p> <p>②木村礎共同研究関係 門前博之(文学部教授) 藤田昭造(附属中学校高校教頭, 文学部講師) 森 朋久(農学部講師)</p> <p>③明治大学人権派弁護士共同研究関係 長沼秀明(文学部講師) 中村正也(図書館事務室)</p> <p>・長所 大学史について知識を有する運営委員会と研究プロ</p>	<p>センターの事業を全学的な体制のなかでオーソライズしていくにあたっては, 2009年度のセンター運営委員会において, センターの位置付けと委員会体制, そして事務局体制についてどのように改善すべきか討論し, 決定事項を報告書にまとめることにしている。</p>

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	<p>ジェクトが一体となって研究事業を進めるため、状況に対して迅速に対応ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点 運営委員会・研究会体制の構成が、全学的なものではない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・センター等の組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 センター運営委員会のなかで定期的に検討会を実施している。 ・長所 委員は、職務上の委員を除き、大学史・アーカイヴズに関する有識者である。 ・問題点 第三者による評価を経ていない。 	<p>第三者評価などを含めた報告書を作成するため、正副所長及び事務局で構成されるWGを設置し、2009年度以降も継続して検討を進め、討議報告書をまとめることにしている。</p>

3 教育内容・方法等(略)

4 学生の受け入れ(略)

5 学生生活(略)

6 研究環境

研究活動に関する目標		
<p>センター運営委員を中心とする共同研究を実施し、その成果を『大学史紀要』(年一回刊)及び『大学史活動』(年一回刊)、「ニュースレター 明治大学史」(年二回刊)等で公表する。</p>		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<p>(研究活動)</p> <p>○ 論文等研究成果の発表状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 センター刊行物(『大学史紀要』等)のみならず、出版社から資料集や研究書を刊行し、発表している。 ・長所 研究書については学会誌や新聞でも紹介されている。 ・問題点 出版にかかる費用の裏づけがない。 	<p>外部資金の獲得等について正副所長及び事務局で構成されるWGにて2009年度も継続して検討している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の学会での活動状況 ・当該学部・研究科として特筆すべき研究分野での研究活動状況 ・研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 全国大学史資料協議会において会長校として活動している。 ・長所 センターは私立大学における大学史資料取り扱い機関としては先駆的に設置された。 ・問題点 	
(研究における国際)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 	

連携) ・ 国際的な共同研究への参加状況 ・ 海外研究拠点の設置状況	・長所 ・問題点	
(教育研究組織単位間の研究上の連携) ○ 附置研究所を設置している場合、当該研究所と大学・大学院との関係 ・ 大学共同利用機関、学内共同利用施設等とこれが置かれる大学・大学院との関係	・現状 本学における校史について知識を有する教職員を運営委員ないし研究調査員として委嘱し、大学史に関する共同研究プロジェクト(三木武夫・人権派弁護士・木村礎)を実施している。 ・長所 総合大学としての本学の強みを活かし、共同研究プロジェクトに最適の人材をメンバーとして委嘱している。 ・問題点 現在の規程では学外の人材を共同研究のメンバーとして委嘱することができない。	2009年度のセンター運営委員会において、センターの位置付けと委員会体制、そして事務局体制についてどのように改善すべきか討論し、決定事項を報告書にまとめることにしている。
(経常的な研究条件の整備) ○ 個人研究費、研究旅費の額の適切性 ○ 教員個室等の教員研究室の整備状況 ○ 教員の研究時間を確保させる方途の適切性 ○ 研究活動に必要な研修機会確保のための方策の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
○ 共同研究費の制度化の状況とその運用の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
(競争的な研究環境創出のための措置) ○ 科学研究費補助金および研究助成財団などへの研究助成金の申請とその採択の状況 ・ 基盤的研究資金と競争的研究資金のバランスとそれぞれの運用の適切性	・現状 ・長所 ・問題点	
(研究上の成果の公表、発信・受信)	・現状 『大学史紀要』(年一回刊)及び『大学史活動』(年	2009年度のセンター運営委員会において、センターの

<p>等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性 国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況 	<p>一回刊),「ニュースレター 明治大学史」(年二回刊)等に発表し,共同研究等の成果を公表する。また,発表した成果を再検討したうえで研究書や資料集を編集・監修している(日本経済評論社『尾佐竹猛研究』,ゆまに書房『布施辰治著作集』等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 長所 共同研究等の成果を必ず公表する。 問題点 論文のレフリー制度等が確立していない。 	<p>位置付けと委員会体制,そして事務局体制についてどのように改善すべきか討論し,決定事項を報告書にまとめることにしている。</p>
<p>(倫理面からの研究条件の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理を支えるためのシステムの整備状況とその適切性 研究倫理に係る学内審議機関の開設・運営状況の適切性 	<ul style="list-style-type: none"> 現状 長所 問題点 	

7 社会貢献

社会貢献に関する目標				
<p>本学の歴史及び卒業生等に関する調査・研究・資料保存・利用等を通して,各種の社会連携貢献を図る。</p>				
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策		
<p>(社会への貢献)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況 教育研究の成果の社会への還元状況 	<ul style="list-style-type: none"> 現状 明治大学リバティアカデミー公開講座として「社会人向け大学史講座」を開講している。社会に大学史の存在を広く知らせ,その意義への理解を深めることを目的としている。 長所 大学と社会との連携を深める施策を推進している。 問題点 あらゆる方策を講じて関係者へのアピール等を一層進め,事業への社会的な認知度を高めて行く必要がある。 	<p>マスメディアへの広報活動を行い,社会的な認知度を高めるようにしている。</p>		
<p>[公開講座の開設状況]</p>				
<p>※シンポジウム、講演会は含めない。公開講座とは、授業に匹敵する学習機会を提供するもの。</p>				
年度	年間講座数	募集人員	参加者	平均受講者数
2006年	1	30	11	10
2007年	1	30	13	15
2008年	1	30	17	15

<p>○ 国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況</p>	<p>・現状 ・長所 ・問題点</p>	
<p>○ 大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用の状況とその有効性</p>	<p>・現状 センターで収集・所蔵している資料の展示を実施している。常設展示を駿河台アカデミーコモン地下1階の大学史展示室で行っている。 また定期の企画展として、大学会館1階ロビーで明治大学小史展(駿河台校舎・年3回), 和泉キャンパスで和泉小史展(和泉校舎・年1回), ほかに不定期にリバティタワー23階共同展示, 企画展等を開催する。 また本学ゆかりの地方と講演・展示会, シンポジウム等を通して交流を図っている。2008年度は「矢代操写真展」(福井県鯖江市)を実施した。 また資料閲覧利用者への便宜を図るため, 2007年度には新たに資料閲覧室を確保した。</p> <p>・長所 社会に開かれた大学として, 大学施設を開放し地域連携等に貢献している。</p> <p>・問題点 常設展示室に常駐スタッフがいない。</p>	<p>(1) 資料の展示, 展示場の管理・運営 2009年度には全国大学史資料協議会と共同で「大学の創立(誕生)展」を実施する(会場 明治大学博物館ギャラリー)。</p> <p>(2) 校史に関する情報の提供等 円滑なレファレンス等の業務を行うため人的配置を再度検討し, 外部に向けて開かれたセンターを目指す。</p> <p>(3) 講演会・公開講座等の実施 2009年度も「社会人向け大学史講座」を継続実施する。実施にあたり, テーマの選定, 対象とする層, 内容構成についてコーディネータを中心に, 講座内容の見直しを図る。2009年度は前年に引き続き「歩いて学ぶキャンパス今昔物語」と題した講座を実施する。本講座では学内外でのフィールドの要素を多く取り入れ, 受講者の拡大に向けてアピールする講座となることを目指している。 上記についてはインターネットや新聞・雑誌などのメディアを通じた報知活動を行い, 知名度を高めしていく必要がある。</p>
<p>(企業等との連携) ・ 企業と連携して社会人向けの教育プログラムを運用している大学・学部における, そうした教育プログラムの内容とその運用の適切性 ・ 寄附講座, 寄附研究部門の開設状況 ・ 大学と大学以外の社会的組織体との教育研究上の連携策 ・ 企業等との共同研究, 受託研究の規模・体制・推進の状況</p> <p>※以下、知財機構</p>	<p>・現状 ・長所 ・問題点</p>	

<p><u>のみ対象</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特許・技術移転を促進する体制の整備・推進状況 ・ 「産学連携に伴う利害関係の衝突」に備えた産学連携にかかるルールの明確化の状況 ・ 発明取り扱い規程, 著作権規程等, 知的資産に関わる権利規程の明文化の状況 		
--	--	--

8 教員組織(略)

9 事務組織

事務組織に関する目標		
<p>センターの目的や事業内容に見合った事務組織体制の拡充を図るため,センターの業務に専従してあたる独立した事務部署を設置し,もって事業の円滑化を図る。</p>		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
<p>(事務組織の構成) ○ 事務組織の構成と人員配置</p>	<p>・現状 センターに関する事務は、総務部総務課(大学史資料センターグループ)が行う。室員としていわゆる専門職員2名を置き、各種事務業務を行うと同時に、資料収集、調査研究活動に従事している。庶務業務にあたる職員を含め専任職員は3名である。 また必要に応じて嘱託職員が置かれることとなっている。現在3名の嘱託職員を置き、三木武夫研究及び戦没学徒調査に関する各種業務にあたっている。</p> <p>・長所 職員間で共通の問題意識を有しながら業務向上に努めている。</p> <p>・問題点 2007年に専任職員の員数が4から3へ1名減となったため、近年の業務量の増加に対応することが困難になりつつある。</p>	<p>員数減を補うため、嘱託職員の増員について要望している。</p>
<p>(事務組織と教学組織との関係) ○ 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況 ○ 大学運営における、事務組織と教学組織との有機的一体性を確保させる方途の適切性</p>	<p>・現状 学部間共通総合講座「日本近代史と明治大学」及び社会人向け大学史講座の講座企画において、前者は教育支援部、後者は学術・社会連携部と協力しつつ事業にあたった。 また各種展示事業においては、図書館・博物館等と連携している。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点 学部間共通総合講座の場合、担当が教務と学部</p>	<p>センター内に設置した総合講座検討WGにおいて、講座依頼等を大学史の側である程度一元化して行えないか方策を検討中である。</p>

	事務室，そして大学史に分かれているため，担当講師からどこが担当なのかわかりにくいとの声を受けた。	
(事務組織の役割) ○ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性 ○ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性 ○ 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況 ○ 大学運営を経営面から支えうるような事務機能の確立状況	・現状 本学にまつわる様々な歴史情報の集積を通して，「権利自由」「独立自治」に象徴される建学精神を学内外に汎く発信している。 ・長所 本学のブランディングを高める役割を担っている。 ・問題点	
(スタッフ・ディベロップメント(SD)) ○ 事務職員の研修機会の確保の状況とその有効性 ・事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性	・現状 他の類縁機関への見学・講習，全国大学史資料協議会での情報交換等を通して，資質向上につとめている。 ・長所 類縁機関との研究成果や情報の共有により，センターの今後の事業について，見直しや改善を踏ることが可能となる ・問題点	

10 施設・設備等

施設・設備に関する目標		
利用者の目線に立った施設・設備の整備を推進し，社会に開かれたセンターとしての位置付けを高めていく。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(施設・設備等の整備) ○ センター等の目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性 ○ 教育の用に供する情報処理機器などの配備状況 ・ 記念施設・保存建物の管理・活用状況	・現状 下記の施設をセンターでは有している。 (1) 事務室 所在地 大学会館 4 階 面積 187 平方メートル (2) 展示室 所在地 明治大学アカデミーコモン地下 1 階 面積 117 平方メートル (3) 資料室(第 1・第 2) 所在地 明治大学 14 号館 1 階 面積 200 平方メートル (4) 作業室 所在地 明治大学 11 号館 1 階	施設拡充及びその場所の集中化，また三木武夫記念室(仮称)のような特色ある所蔵資料の利用に向けた施設確保については，担当部署や理事に要望を出し，改善を図る。 また閲覧室については，外部利用者にとって利用しやすい・親しみやすいイメージを与えるため，看板・バナー等の設置・改修を行う。

	<p>面積 99 平方メートル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長所 事務・展示・資料室それぞれ専用のスペースを有している。 ・問題点 それぞれの場所が極めて狭隘であり、所在地がすべてばらばらであることは業務上大きな支障となっている。とりわけ資料室が別棟にあり、利用依頼があつてからすぐに出納することができないため、この改善が必要である。 また事務室には利用者が自由に利用できる閲覧のスペースがあるが、奥まった位置にあるため、利用者からわかりにくいとの意見がある。 	
<p>(先端的な設備・装置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端的な教育研究や基礎的研究への装備面の整備の適切性 ・先端的教育の用に供する機械・設備の整備・利用の際の、他の大学院、大学共同利用機関、附置研究所等との連携関係の適切性 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	
<p>(キャンパス・アメニティ等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況 ○ 「学生のための生活の場」の整備状況 ○ 大学周辺の「環境」への配慮の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 ・問題点 	
<p>(利用上の配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設・設備面における障がい者への配慮の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 当センターの開室時間は下記の通りである。 月～金： 10:00～16:00 土 : 9:30～11:30 *国民の祝日のほか、別途定めて休室することがある。 ・長所 昼休みによる休室時間を設けず、利用者への便宜を図っている。また障がいをもった利用者への配慮として、アカデミーコモン大学史展示室や大学史資料センター閲覧室のバリアフリー化を図っている。 	

	・問題点	
(組織・管理体制) ○ 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況 ○ 施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況	・現状 ・長所 ・問題点	

11 図書および電子媒体等

図書及び電子媒体等に関する目標		
大学史に関する図書・新聞雑誌・電子記録を収集・保存すると同時に、利用者に広く公開する。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(図書、図書館の整備) ○ 図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性 ○ 図書館の規模、開館時間、閲覧室の座席数、情報検索設備や視聴覚機器の配備等、利用環境の整備状況とその適切性	・現状 センターで受け入れた図書、学術雑誌、寄贈資料等はすべて目録を作成し、閲覧が可能になっている。 ・長所 所蔵する資料については、個人情報等に関わるものをのぞき、すべて閲覧が可能となっている。 ・問題点 施設や員数の関係上、資料等の閲覧利用には事前予約が必要となっている。	今後レファレンス対応なども業務に含めた嘱託職員の増員を検討していく。
(情報インフラ) ○ 学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況 ○ 学術資料の記録・保管のための配慮の適切性 資料の保存スペースの狭隘化に伴う集中文献管理センター(例えば、保存図書館など)の整備状況や電子化の状況	・現状 ACCESS ベースの資料目録を作成し、閲覧者に対する情報提供の迅速化を図っている。 ・長所 閲覧者に対する情報提供の迅速化を図っている。 ・問題点 受け入れ目録は内部利用で公開していない。	2010 年度に資料データベースを WEB 上で公開するため、データベース構築の詰め作業を行っている。

12 管理運営(略)

13 財務(略)

14 自己点検・評価

自己点検・評価に関する目標		
本センターは本学の歴史及び卒業生等に関する調査・研究・資料保存・利用等を目的として設置された。この目的に基づいてセンターの事業が実施されているかを検証するため、自己点検・評価を実施している。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(自己点検・評価) ○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性 ○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 本センターの自己点検・評価は明治大学自己点検・報告書として、大学ホームページで公開している。 ・長所 センターの現状と改善点について明示し、センターの発展に期する。 ・問題点 学外者による評価が行われていない。 	2009年度のセンター運営委員会等において、第三者評価などを含めた報告書を作成することが可能か検討している。
(自己点検・評価に対する学外者による検証) ○ 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するための措置の適切性 ・ 外部評価を行う際の、外部評価者の選任手続の適切性 ・ 外部評価結果の活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 実施していない。 ・長所 ・問題点 学外者による評価が行われていない。 	2009年度のセンター運営委員会等において、第三者評価などを含めた報告書を作成することが可能か検討している。
(大学に対する社会的評価等) ・センター等の社会的評価の活用状況 ・自大学の特色や「活力」の検証状況	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 センターは私立大学における大学史資料取り扱い機関としては先駆的に設置された。日本の大学における類縁機関の連合体である全国大学史資料協議会では会長校をつとめている。 ・長所 一般からの問合せに対応しつつ、他大学類縁機関をリードする存在として、他大学類縁機関からの見学や問合せ等にも対応している。 ・問題点 	
(大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状 大学基準協会による認証評価の際の、「分科会報告書案」における大学アーカイヴズとしての機能 	学内各部署へ資料所在に関するアンケートを実施する。

<p>○ 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応</p>	<p>を充実させるべきとの指摘に応えるべく、学内資料収集を重視することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長所 大学アーカイヴズ機能の拡充をはかる。 ・問題点 大学アーカイヴズ機能がまだ十分整備されていない。 	
---	---	--

15 情報公開・説明責任(略)